

令和6年4月26日

報道機関各位

青森県立美術館副館長

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024 開催のご案内（追加情報 第3弾）

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会は、2024年4月13日（土）から9月1日（日）まで青森県内にある5つの美術館・アートセンターで「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」を開催します。4月12日（金）には青森県知事、開催4市（青森市、弘前市、八戸市、十和田市）の市長、館長、学芸員、アーティストらが参加しオープニングセレモニーが行われました。

つきましては、5館で開催中のメイン企画で展示している作品や展覧会風景画像の提供方法をまとめたプレスリリース vol.5 を提供いたしますので、今後の取材の参考にしていただきますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1 添付資料

- ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024【リリース Vol.5】

報道機関用提出資料（連絡先）	
担当	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 事務局（青森県立美術館内） 担当：蓑島、櫻庭
電話番号	017-783-3000
アドレス	bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
所属長	青森県立美術館 副館長 境谷 孝司

青森県内5つの美術館・アートセンターによるアートフェス  
**AOMORI GOKAN アートフェス 2024**  
「つらなりのはらっぱ」

2024年4月13日(土) — 9月1日(日)

**青森県初開催！**

**5つの美術館・アートセンターで開幕しました！**



2024年4月12日に開催したオープニングセレモニーでの集合写真

青森県初、県内の個性豊かな5つの美術館・アートセンター(青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館)が連携し開催する「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」が開幕しました。前日の4月12日(金)には青森県知事、開催4市(青森市、弘前市、八戸市、十和田市)の市長、館長、学芸員、アーティストらが参加しオープニングセレモニーが行われました。

冒頭、杉本実行委員長から「アートをテーマにした周遊や滞在観光を促進する青森県初の取り組みとなる。地域に根ざして活動するキュレーターが議論をしながら丁寧につくりあげている。個性豊かな5館がゆるやかにつながり、これまでにない新しい形のフェスの実現となる。」と挨拶。続いて宮下知事より「本フェスのテーマにある“はらっぱ”とは、広大な草原、広がる空のもと各々が好きなことをして過ごす場であり、それは自由の表象であり、アートの根源的な価値を表すものではないか。個々に価値を有する5館が連携し、よりおおきなつらなりのはらっぱになることで、青森県としてのアート、青森県の新しい価値を新しく発信できる。県内、全国、世界から多くの方がそれぞれの館を訪れ、楽しみながら青森を感じてほしい。」と挨拶しました。当日は参加作家約50組のうち、30名近いアーティストが参加。代表し会期後半に5館を巡回する作品を発表する栗林隆さんから「全国の中でも、素晴らしい美術館が5つもある県は珍しい。青森の可能性を感じる。《元気炉》という作品では、是非皆さんに参加してもらいアートの新しい可能性を感じてほしい。」と挨拶されました。本フェスは今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」を各館が読み解きメイン企画や関連イベントの企画、さらに各館を巡回する共通企画など多種多様なアート体験と共に、青森県を周遊してもらうことを目的としたこれまでにないアートプロジェクトです。

## 本フェスの企画構成



青木淳 《つながりのはらっぱのための壁》

- |           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| 1. メイン企画  | 共通テーマ「つらなりのはらっぱ」のもと各館で開催する展覧会 |
| 2. 共通企画   | 5館を巡回する共通作品の展示                |
| 3. 関連イベント | 共通テーマから各館で開催される関連企画           |
| 4. 同時開催   | 本フェスの期間中に開催される他の展覧会           |

## 2024年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」について

「はらっぱ」と聞いて思い浮かべる風景は人それぞれ違うように、青森には「はらっぱ」にたとえられる、個性豊かな5つの現代美術を扱う館が揃っています。「はらっぱ」は目的をもって行くところではなく、訪れることでなにかに会い、なにかが起こる、特別だけれど日常とも地続きの場所です。そこは、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り返される場とも言えます。本テーマには、5つの美術館やアートセンターがまさに「はらっぱ」のように機能し、それぞれの個性的な活動のつらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの願いが込められています。5館それぞれの「つらなりのはらっぱ」を通して、これまでにない風景がいま、ここに立ち上がることを目指します。

## 本アートフェスの特徴

### ■新しい文化芸術ネットワークの在り方を探る

本アートフェスでは5館の学芸員が集まって議論を重ね、コンセプトやテーマを練りあげていきました。これは新しい文化芸術ネットワークの在り方を探り、青森県の文化的多様性とその魅力を伝えていく試みとなります。

### ■5館の個性を接続させることで浮かび上がる「つらなりのはらっぱ」というテーマ

5館は青森市、弘前市、八戸市、十和田市にそれぞれ点在しています。文化圏や都市機能の異なる地域で、5つの館もそれぞれ個性的な活動を行っています。プロジェクトによって各館がゆるやかにつながり、その効果を県全域に波及させていくことを目指した「芸術文化体験+観光」プロジェクトです。今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」のもと、5館の特徴を活かした展覧会、また共通企画として栗林隆《元気炉》が各館を巡回します。

### ■子どもたちが楽しく、アートに触れられる5館共通の鑑賞ツール

子どもたちが5館に親しみ、作品との出会いを楽しむための鑑賞ツールを用意します。各館の特徴のほか、美術館での過ごし方や作品の楽しみ方の提案を収載した基本ブックに加え、各館に用意されたワークシートで「5館との出会い」そして「作品との出会い」をサポートします。また青森県内の高校生を対象に、一步踏み込んだ作品鑑賞と体験の共有を通し、他者や自己と向き合い、新たな発見や見え方、考え方に触れる機会を設けます。

### ■青森県内の多彩な魅力を5つの美術館、アートセンターを軸に体験する周遊プラン

本州最北端に位置し、三方を海に囲まれた青森県は地域により気候や風土が異なり多彩な伝統、自然、食文化に恵まれています。アートフェスでは、その魅力を再発見してもらうことを目的に、工芸、建築、自然などをテーマに設定し、国内外、また県民や近隣の方にも新しいアートを通じた体験を提案します。

## 1 [メイン企画]

## ○青森県立美術館

「かさなりとまじわり」

前期：4月13日（土）－6月23日（日）

後期：7月6日（土）－9月29日（日）



井田大介 《Synoptes》 2023年

青森県立美術館を設計した青木淳氏が提唱した「原っぱ」論を援用し、展示室のみならず、コミュニティギャラリーやワークショップエリア、屋外ヤードなども展示やプロジェクトに活用します。展示室を含めた諸室をそれぞれの「原っぱ」に見立て、館内外の至るところでアートを発見、鑑賞、体験できる場を設けることで、美術館全体に大きな「つらなり」を生み出していきます。「展示室で展覧会を見て、ショップやカフェに立ち寄って帰る」だけでなく、県立美術館というひとつの街を自由に散策しながら、建築×アートの魅力を美術館全体から体感いただけます。

テーマは「かさなりとまじわり」。美術館を構成する特徴的な各空間が「かさなり」、いくつかのコンセプトに沿って作品がインストールされることで、青森の自然と人間の「まじわり」、死んだものと生きているものの「まじわり」、現代社会のありようとこれから未来を切り拓いていく人たちの「まじわり」の諸相を浮かび上がらせていきます。三内丸山遺跡に着想を得た美術館の施設内外を往還しながら、縄文からつらなる長い時間の中で堆積してきた青森の文化芸術のエネルギーを引き出し、豊かな青い森の生態系のように展示空間を連鎖、循環させることで、未来を切り開くための新しい活力を美術館全体に充満させる試みです。

[参加作家] 青木淳、井田大介、原口典之、吉田克朗、吉田槌子、大森裕美子、大森記詩、吉田有紀、青秀祐、Viirtualion、吉田謙也、室谷心太郎、KOUYA、糸虫、Nakaya、豊川茅、窪田梨絵、算用子綺香、宮野春香

## ○青森公立大学 国際芸術センター青森

前期：4月13日（土）－6月30日（日）

後期：7月13日（土）－9月29日（日）

「currents / undercurrents -いま、めくるめく流れは出会って」



岩根愛 《The Opening》 2024年

本展では、「現在」という意味をもちながら、海流や気流をはじめとして、ある一定の方向に動く水や空気、電流などの変わり続ける流れを示す「current」と、表面や他の流れの下にある目に見え難い流れや暗示を意味する「undercurrent」をキーワードとして、ある場所とかかわり合いながら表現をつむぎ出す国内外のアーティスト、そして青森ゆかりの表現者たちによる作品が集います。前期と後期の出展作家は同じですが、会期半ばで展示替えをし、異なる2つの展覧会を行うことで、一回限りでない場所への働きかけや、変化し続ける「いま」をこの

場に取り込むことを試みます。それぞれの表現が発生させる流れや渦のようなものが、出会い交差することで、また新たな流れや渦を無数に生成させていく…実験的なアプローチを通して、私たちの現在地を問う企画です。

[参加作家] ジュマナ・エミル・アブード、青野文昭、岩根愛、是恒さくら、工藤省治、光岡幸一、中嶋幸治、澤田教一、鈴木正治、ロビン・ホワイト [会場構成] 山川陸

## ○弘前れんが倉庫美術館

4月6日(土) - 9月1日(日)

「<sup>はかな</sup> <sup>きら</sup> 蜷川実花展 with EiM : 儚くも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」

蜷川実花 《Sanctuary of Blossoms》 2024年

展覧会「蜷川実花展 with EiM : 儚くも煌めく境界」は、写真家・映画監督の蜷川実花が、データサイエンティストの宮田裕章、セットデザイナーのEnzo、クリエイティブディレクターの桑名功らと結成したクリエイティブチーム・EiMとの協働により実現する大規模な個展です。うつろう時間やながれゆく季節の境界を超える壮大なインスタレーションを発表するほか、蜷川が弘前をはじめ、日本各地で撮影した桜の写真など、人の手とまなざしに育まれた花や木々を捉えた作品群を紹介します。展覧会を通じて、人間と自然とが築いてきた関係性を浮かび上がらせ、それぞれが住

まう土地の自然やその背景にある文化、歴史を新たな視点から捉え直す機会となることを目指します。

[参加作家] 蜷川実花、Eternity in a Moment [EiM]

「<sup>しらかみのぞきみこう</sup> 弘前エクステンジ #06 『白神観見考』」

狩野哲郎 《あいまいな地図、明確なテリトリー》 2024年

弘前エクステンジ #06「白神観見考」は、青森県南西部に位置し、弘前市を含む津軽平野を流れる岩木川の源流の地でもある白神山をテーマに実施するリサーチ・プロジェクトです。狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK. の4組のアーティストたちが、それぞれの視点で、作品展示を始め、ワークショップやトークイベントなどを実施します。古くから人々の生活を支えてきた川の源となる山々に目を向け、そこに息づく動植物や人々の営みの時間が積み重なる景色に触れることで、いつもの風景が異なるものに見えてくるきっかけとなることでしょう。

[参加作家] 狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.

## ○八戸市美術館

4月13日(土) - 9月1日(日)

## 「エンジョイ！アートファーム !!」



展示風景 東方悠平 《自由の像、不自由なバナナ》  
2024年

訪れる人によって使い方が決められていく「はらっぱ」のような場でもあります。「はらっぱ」でもあり、「ファーム」でもあるこのジャイアントルームで、様々な作品や活動、そしてアーティストとの出会いをお楽しみいただけます。

美術館を象徴する空間「ジャイアントルーム」で、八戸を拠点に活動する5人のアーティストが、来館者と共に作り、楽しむプロジェクトを展開していきます。作品を鑑賞したり、絵を描いたり、トークプログラムに参加してみたり、ジャイアントルームに滞在するアーティストと交流したり……。絵画や版画、写真、ダンスなど、多様なジャンルで日々繰り広げられる活動により、来館者とアーティストがこの場で出会い、関わり合うことで、まるで畑に蒔いた種のようにどんどん育っていくことを期待しています。

訪れるたびに变化するジャイアントルームのあり方は、

[参加作家] 磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平

## ○十和田市現代美術館

4月13日(土) - 11月17日(日)

## 「野良になる」



展示風景 (丹羽海子、基原蓉子)

人間のコントロールと動植物の生の関係を取り上げ、映像や料理の作品を作る永田康祐、ブラジルに植民地時代以前から伝わる知識をもとに、植物と人間の関係を問い直す作品を制作するアナイス・カレニンなど、多様な視点から自然を捉える若手アーティストの表現を紹介します。

本展では近代が生み出した自律した主体としての「人間」を見直し、そこから排除された存在や思考に目を向けます。私たちの思考を規定するさまざまな二項対的な枠組みの境界を攪乱しつつ強かに——野生でも飼われるのでもなく野良のように——息づくあり方や物語に出会うことになるでしょう。

日本とアメリカにルーツを持ち、トランスジェンダー女性として生きるあり方を彫刻で表現する丹羽海子、学校教育を離れ、独学でドローイングを柔らかいウールへと変換し風景を描く基原蓉子、品種改良や養殖といった

[参加作家] 丹羽海子、基原蓉子、アナイス・カレニン、永田康祐

## 2 [共通企画]

### ○栗林隆 《元気炉》



栗林隆 《元気炉》2022年 《蚊帳の外》  
ドクメンタ15、ドイツ・カッセル）より  
Photo : Rai Shizuno

本アートフェス後半の8月から最終日にかけて、栗林隆による《元気炉》が開催館を巡回します。栗林隆は、空間の内と外、自然と人間、人間同士の間にある境界など、あらゆる時代や場所に存在する「境界」に目を向けて、その意味を問い直すような作品を制作してきた作家です。《元気炉》は、原子炉の形状をした構造物に薬草の香りを帯びた蒸気を発生させて、観客が中に入って体験することが可能な作品です。

本作は、作家がかつてタイに赴いた折、その土地で採取されるハーブを用いたスチームサウナによって、体調不良だった体にエネルギーを取り戻したという経験に由来

します。ここには、2011年の東日本大震災後に再認識した原発事故の恐ろしさと、持続性の高い自然エネルギーや再生可能な社会に向けた提案とを重ね合わせた構造となっています。原子炉を模した作品の内部空間や周囲に人々が集い、植物のエネルギーを感じることでできる本作は、人と自然の境界線上に生まれた場所であり、それは本アートフェスのテーマである「つらなりのはらっぱ」を体現するように、ここに集った人々が、みえざる境界線をまたいで、世界との新たな関係性を構築する機会を生み出そうとするものです。

| 展示スケジュール \*作品が稼働する日時の詳細は、公式WEBサイトで発表します。

青森県立美術館	○展示   8/9 (金) - 11 (日)
青森公立大学 国際芸術センター青森	○展示   8/14 (水)・15 (木)
八戸市美術館	○展示   8/18 (日)・19 (月)、21 (水)
十和田市現代美術館	○展示   8/24 (土)・25 (日)
弘前れんが倉庫美術館	○展示   8/28 (水) - 9/1 (日)

### ○5館共通 ラーニング・プログラム

子どもたちが5館に親しみ、作品との出会いを楽しむための鑑賞ツールを用意します。また青森県内の高校生を対象に、作品鑑賞を通して、新たな発見や見え方、考え方に触れる機会を設けます。

- |                        |                                      |
|------------------------|--------------------------------------|
| ①AOMORI GOKAN 鑑賞ツールの制作 | *対象学年：小学校4～6年生 /<br>2024年6月中旬以降、配布予定 |
| ②高校生サマープログラム           | *7月開催予定                              |

### 3 [関連イベント]

#### ○青森県立美術館

・音楽フェスティバル「青森の合唱」 9月1日(日) 午後開催予定

#### ○青森公立大学 国際芸術センター青森

・Maher Shalal Hash Baz ライブ「山の上の連絡船」  
6月15日(土) 13:00-15:00

#### ○弘前れんが倉庫美術館

・栗林隆《元気炉》× L PACK. ほか 《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》 8月30日(金) - 9月1日(日)

#### ○八戸市美術館

・エンジョイ! パフォーマンスピクニック 5月6日(月・祝) 10:00-17:00

#### ○十和田市現代美術館

・永田康祐《Feasting Wild》 7月20日(土)・21日(日) 18:00-21:00  
11月10日(日)・16日(土)・17日(日) 18:00-21:00

### 4 [同時開催]

#### ○青森県立美術館 「帝国ホテル二代目本館 100周年 フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」

3月20日(水・祝) - 5月12日(日)

#### 「鴻池朋子展：メディシン・インフラ」

7月13日(土) - 9月29日(日)

#### ○八戸市美術館 「展示室の冒険」 4月20日(土) - 6月24日(月)

#### 「tupera tupera のかおてん。」

7月6日(土) - 9月1日(日)

#### 「コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化」

3月23日(土) - 7月8日(月)

#### 「コレクションラボ 008 彩る書」

7月13日(土) - 10月28日(月)

#### ○十和田市現代美術館

「尾角典子展」 7月6日(土) - 9月8日(日)

## 一 開催概要

| タイトル (日) AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」

| タイトル (英) AOMORI GOKAN Arts Fest 2024 「Interweavers in Open Fields」

| 会期 2024年4月13日(土) - 9月1日(日)

| 主催 AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会

[青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館、青森県、青森市、弘前市、八戸市、十和田市、(公社)青森県観光国際交流機構]

| 実行委員長 青森県立美術館 館長 杉本康雄

| 特別協賛 (株)プロクレアホールディングス  
リベラ(株)

| 協賛

青森県信用金庫協会  
(株)角弘  
(株)三和堂  
津軽海峡フェリー(株)  
東和電材(株)

富士見総業(株)  
紅屋商事(株)  
(株)マエダ  
(株)吉田産業

青森朝日放送(株)  
(株)青森テレビ  
青森放送(株)  
青森三菱電機機器販売(株)  
青森三菱ふそう自動車販売(株)  
(株)あさひほうむ  
(株)オプティム  
(株)デーリー東北新聞社

(株)東奥日報社  
八戸酒造(株)  
(株)日立製作所東北支社  
丸大堀内(株)  
三八五流通グループ  
(株)陸奥新報社  
(株)ラグノオささき  
(株)リンクステーション

青森県商工会議所連合会  
(一社)慈恵会  
(株)城ヶ倉観光

藤村機器(株)  
プライフーズ(株)  
(株)丸大サクラ中薬局

NEXCO 東日本

倉橋建設(株)  
(株)トロンマネージメント

南部電機(株)

| 企画

- ・青森県立美術館 池田亨、菅野晶、板倉容子、高橋しげみ、奥脇高大
- ・青森公立大学 国際芸術センター青森 慶野結香
- ・弘前れんが倉庫美術館 木村絵理子、佐々木蓉子、宮本ふみ
- ・八戸市美術館 平井真里、大澤苑美、高橋麻衣
- ・十和田市現代美術館 外山有菜

| 公式WEBサイト <https://aomori-artsfest.com>

| SNS

- ・ X (旧 Twitter) @aomori\_artsfest
- ・ Instagram @aomori\_artsfest
- ・ facebook @aomori\_artsfest
- ・ ハッシュタグ #青森アートフェス #aomori\_artsfes

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024 リリース4 広報画像申請書

2024年4月13日（土）－ 9月1日（日）

## ■ 貴社についてお知らせください

○媒体名	_____	○貴社名	_____
○ご担当者名	様 _____	○所属部署	_____
○ご住所〒	_____	○E-mail	_____
○TEL番号	_____	○FAX番号	_____
○ご掲載・放映の予定日が決まっておりますお知らせください	_____	月	日

## ▼ 読者プレゼントのご希望（5館周遊の招待券5名様まで）

 希望する 名分 \_\_\_\_\_  希望しない

読者プレゼント向け招待券は、画像1点以上掲載の上、本フェスをご紹介いただける場合に限らせていただきます。

尚、2024年7月31日までに掲載（ご紹介）いただいた分を対象とします。

## ▼ 希望される広報画像の番号に「○」をつけてください。

A AOMORI GOKAN アートフェス 2024 ポスター画像

## 5つの美術館・アートセンターの外観画像

- B 青森県立美術館 外観  
C 青森公立大学 国際芸術センター青森 外観  
D 弘前れんが倉庫美術館 外観 ©Naoya Hatakeyama  
E 八戸市美術館 外観 ©Daici Ano  
F 十和田市現代美術館

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024 メイン企画

- 青木淳 《つながりのはらっぱのための壁》 青森県立美術館 「かさなりとまじわり」
- 井田大介 《Synoptes》 2023年 青森県立美術館 「かさなりとまじわり」
- 岩根愛 《The Opening》 2024年 青森公立大学 国際芸術センター青森 「currents / undercurrents -いま、めくるめく流れは出会って」
- 蜷川実花 《Sanctuary of Blossoms》 2024年 弘前れんが倉庫美術館 「蜷川実花展 with EiM：儚なくも煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」
- 狩野哲郎 《あいまいな地図、明確なテリトリー》 2024年 弘前れんが倉庫美術館 「弘前エクステンジ#06『白神視見考』」
- 展示風景 東方悠平 《自由の像、不自由なバナナ》 2024年 八戸市美術館 「エンジョイ！アートファーム !!」
- 展示風景（丹羽海子、基原蓉子） 十和田市現代美術館 「野良になる」

## AOMORI GOKAN アートフェス 2024 共通企画

- 栗林隆 《元気炉》 2022年（《蚊帳の外》ドクメンタ15、ドイツ・カッセル）より Photo：Rai Shizuno

## その他の画像、グッズ

- AOMORI GOKAN アートフェス 2024 オープニング セレモニー 集合写真
- 公式ガイドブック 「スタンプラリー&パスポート」付き 1,300円（税込）
- トートバッグIWANE Ai Photo：IWANE Ai (@ai\_iwane) 4,400円（税込）
- AOMORI GOKAN | 缶バッジIWANE Ai、ロゴタイプ、パターン 各550円（税込）
- イラスト工藤陽之さんの青森でつくられた MADE IN AOMORI シリーズ ©Kudo Takayuki  
（左から「りんごのふがし」540円「りんごティー」1,728円「りんごセミドライ」540円「りんごサイダー」540円 いずれも税込）

## お問合せ先＜広報事務局＞

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 広報事務局 [N&A内] 担当：鎌倉、進藤、永倉 MAIL：aomoriart-gokan@nanjo.com  
〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-11-6 TEL 03-6261-5784 / 鎌倉 050-5530-6731 / FAX 03-6369-3596

【A】



【B】



【C】



【D】



【E】



【F】



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



【13】



#### < 広報画像、取り扱いに関するお願い >

- 作品画像の使用はAOMORI GOKAN アートフェス 2024をご紹介いただく場合のみとし、閉幕後の使用はできません。
- 作品画像をご紹介いただく場合は、展示美術館名、指定のキャプションを必ずご記載してください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までFAX又はメールにてお知らせください。
- ご掲載頂いた場合は、お手数ですが、掲載紙（誌）または同録を広報事務局までお送りください。